連結決算ハイライト

当上半期は、各国で政策動向や地政学リスクによる不確実性が長期化し、グローバルで保護主義･分断化が拡大する中、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

国内では、各医療機関はタスクシフトや業務の効率化に取り組む一方、物価や賃金の上昇により経常赤字の割合が増加するなど、厳しい経営環境が続きました。海外では、米国での公的医療保険の予算削減案や中国での景気減速等はあるものの、先進国、新興国ともに医療機器の需要は総じて堅調に推移しました。

当上半期の売上高は前年同期比5.2％増の1,081億2千万円となりました。利益面では、増収およびアドテック(株)連結の効果に加え、自社品の売価アップやコストダウン、在庫評価減の減少等により売上総利益率が改善したことから、営業利益は前年同期比31.8％増の67億4千1百万円となりました。経常利益は、為替差損の減少により、前年同期比214.7%増の67億3千2百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比876.7%増の45億2千4百万円となりました。

<国内市場>

国内売上高は前年同期比1.0％増の668億8千万円となりました。医療機器の設備投資に慎重な動きは見られたものの、消耗品･サービス事業の強化に注力した結果、売上を伸ばすことが出来ました。市場別には、診療所、私立病院、官公立病院市場が堅調に推移し、大学市場の売上も前年同期並みを維持しました。商品別には、生体計測機器が好調に推移しました。治療機器、その他商品群は前年同期並み、生体情報モニタは前年同期実績を下回りました。

<海外市場>

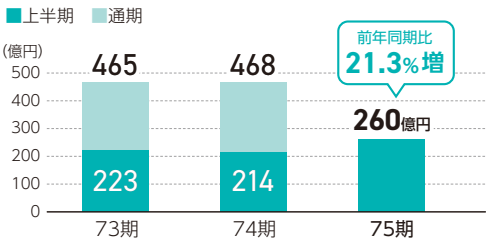
海外売上高は前年同期比12.9％増の412億4千万円となりました。為替およびアドテック(株)連結の影響を除いても二桁成長となりました。中南米は減収となりましたが、北米、欧州、アジア州他が好調に推移しました。

商品群別の概況（連結）

❶ 生体計測機器

脳波計、筋電図･誘発電位検査装置、心電計、心臓カテーテル検査装置、診断情報システム、関連の消耗品（記録紙、電極、電極カテーテルなど）、保守サービスなど

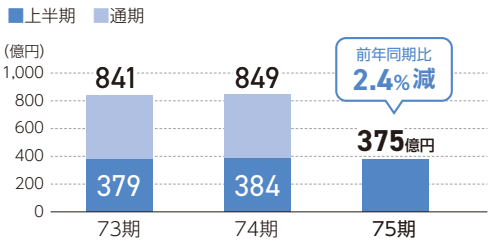
国内	診断情報システム、心臓カテーテル検査装置群が二桁成長となり、脳神経系群も好調に推移しました。心電計群は減収となりました。
海外	脳神経系群がアドテック(株)連結の影響を除いても、北米、アジア州他で好調に推移しました。心電計群もアジア州他で好調でした。

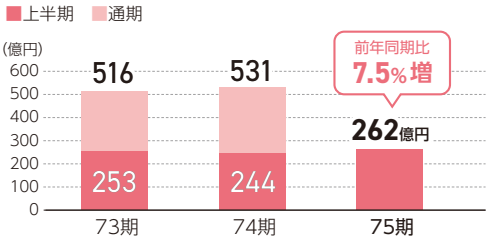


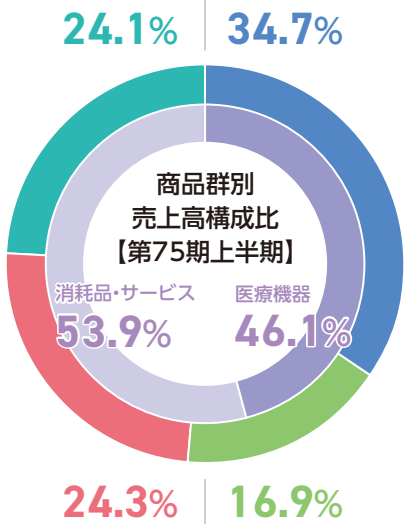
❷ 生体情報モニタ

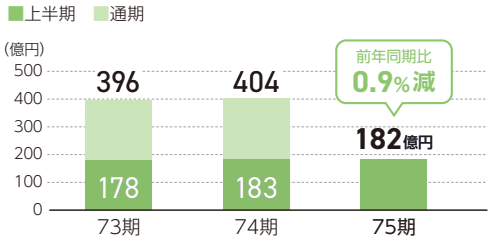
セントラルモニタ、ベッドサイドモニタ、バイタルサインテレメータ、臨床情報システム、関連の消耗品（電極、センサなど）、保守サービスなど

国内	前年同期に好調だった医用テレメータ、送信機が減収となりました。臨床情報システムは好調に推移し、ベッドサイドモニタ、センサ類など消耗品も堅調でした。
海外	前年同期に好調だった北米、中南米、欧州で減収となりました。アジア州他では、モロッコ、サウジアラビアでの大口商談の受注もあり、大幅増収となりました。









❸ 治療機器

除細動器、AED、人工呼吸器、心臓ペースメーカ、麻酔器、人工内耳、自動心臓マッサージ装置、関連の消耗品（電極パッド、バッテリ、アブレーションカテーテルなど）、保守サービスなど

国内	AEDが更新需要の継続、新製品効果もあり好調に推移しました。除細動器は消耗品が好調に推移し、増収となりました。人工呼吸器は商談が例年に比べて下期偏重となり減収でした。
海外	AEDが全ての地域で増収となりました。除細動器は欧州、アジア州他で好調でした。人工呼吸器は北米、中南米、欧州で大幅増収となり、北米でマスク型人工呼吸器がけん引しました。

❹ その他

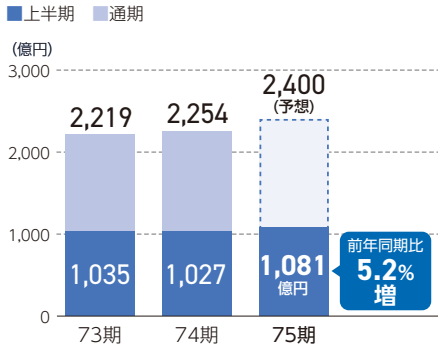
血球計数器、臨床化学分析装置、超音波診断装置、消耗品（試薬など）、設置工事･保守サービスなど

国内	医療機器の設置工事･保守サービスが好調に推移し、検体検査装置･試薬も堅調でした。自社品販売の注力により、現地仕入品は減収となりました。
海外	検体検査装置･試薬が、前年同期に好調だった欧州、中南米を中心に減収となりました。

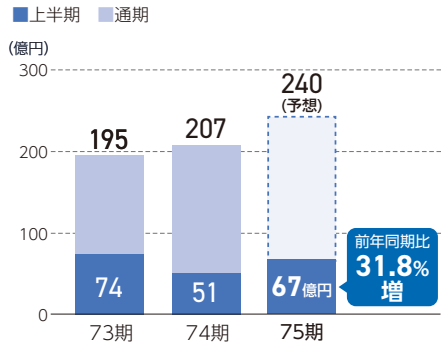
上半期連結決算ハイライト

本資料に記載されている内容は、将来に関する前提、見通し、計画に基づく予測が含まれており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

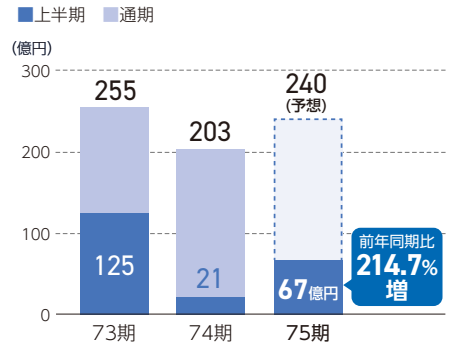
売上高



営業利益

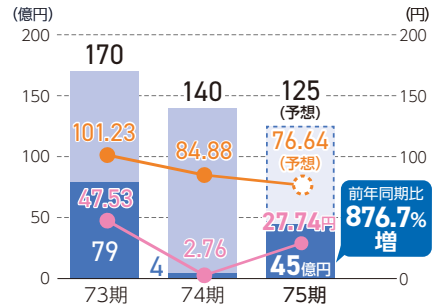


経常利益



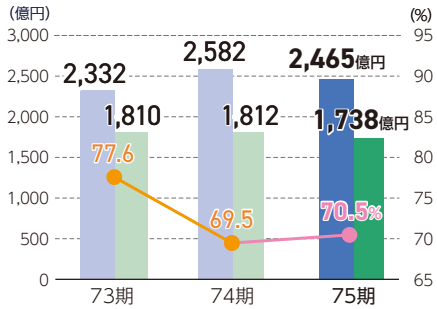
親会社株主に帰属する 当期純利益／1株当たり当期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益／■上半期 ■通期
1株当たり当期純利益／●上半期 ●通期



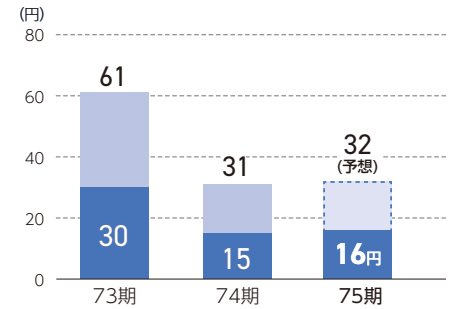
総資産／純資産／自己資本比率

総資産／■上半期 ■通期
純資産／■上半期 ■通期
自己資本比率／●上半期 ●通期



1株当たり配当金

■中間 ■年間



※ 当社は、2024年7月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を行いました。「1株当たり当期純利益」につきましては、当該株式分割が第73期の期首に行われたと仮定し算定しています。また、第73期の「1株当たり配当金」につきましては、株式分割前の実際の金額を記載しています。

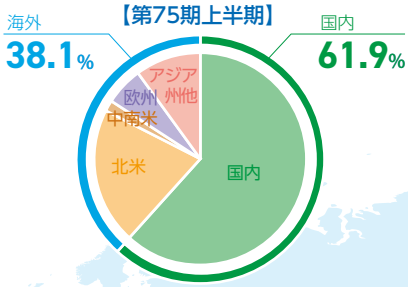
利益配分に関する考え方

利益の配分につきましては、健全な財務基盤を確保した上で、将来の企業成長に向けた投資と株主還元の充実を図ることを基本方針としています。優先順位については、①研究開発や設備投資、M&A・提携、人財育成など将来の企業成長に向けた投資、②株主還元としています。株主還元の目標は「連結総還元性向35%以上」としています。株主還元については、業績の伸長に応じて安定的な増配を行うとともに、自己株式の取得は、今後の事業展開、投資計画、内部留保の水準、株価の推移等を総合的に考慮し、機動的に実施します。

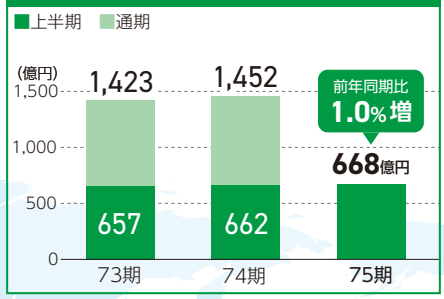
地域別の概況（連結）

北米では、アドテック(株)を含む脳神経系群、人工呼吸器が大幅増収となり、二桁成長となりました。生体情報モニタは好調だった前年同期を下回りました。中南米では、メキシコ、コロンビアを中心に減収となりました。欧州では、イタリア、トルコ、スペインを中心に好調に推移しました。アジア州他では、タイ、ベトナムが好調だったほか、モロッコでの大口商談の受注もあり中近東・アフリカが大幅増収となりました。

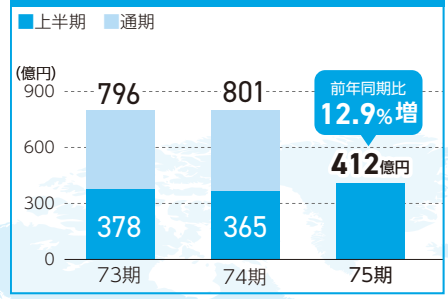
地域別売上高構成比【第75期上半期】



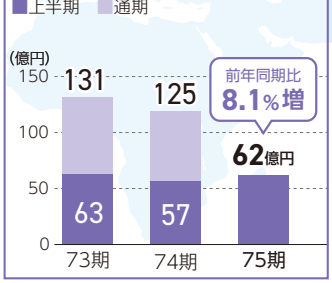
国内売上高



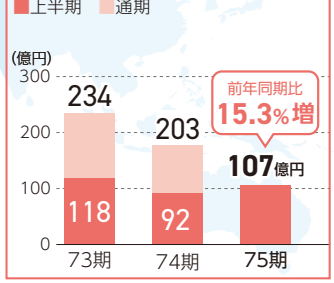
海外売上高



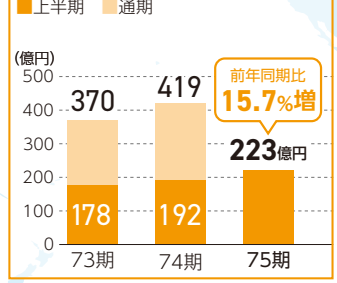
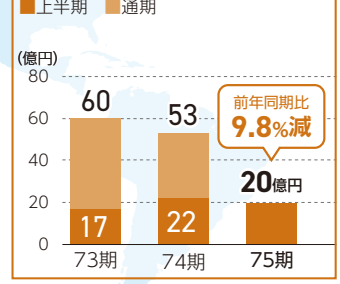
欧州売上高



アジア州他売上高



北米売上高



中南米売上高